全国 検数労連

７１２号

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-10-2 日港福会館５階
Tel 03(3733)5621　Fax 03(3733)5622
メール　roren@kensu.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.kensu.jp/
全国検数労働組合連合
書記局

７月４日（月）１０：００～１０：３０　第７回　検数労連２２夏季一時金交渉
全地域から中闘見解に対する批准・一任を受け、妥結を表明。
支給日７月８日（金）を確認。

前回の交渉で組合は『これ以上の修正回答は困難』と判断し、機関手続きに入る旨を公表しました。その後、中央闘争委員会は各地域闘争委員会に22夏季一時金闘争に関する中闘見解を発出。７月１日（金）までにすべての地域から批准・一任を受け、７月４日に開催した第７回検数労連22夏季一時金交渉で妥結の態度表明を行いました。

【態度表明】

22夏季一時金妥結の態度表明にあたり、７月１日17時までに各地域労連、支部から意見を集約し、全地域から一任を受け、夏季一時金要求全般については、要求との関係では不満が残るものの現到達をもって『妥結』を表明する。

夏季一時金要求は６月３日の第１回交渉で要求書を提出以降、今日まで７回の交渉を重ねてきた。この間、両協会に対し『安定した一時金』『地域間格差の解消』『超乗率視』など人員不足の中で職場を支える組合員の期待と思い、そして、諸物価高騰の影響による生活対策などを交渉の中で繰り返し主張してきた。同時に検数経営は雇用主として従業員の就労環境と生活安定を第一義に考え、厳しい時だからこそ『人財投資』を念頭に置いた一時金対応を図るよう強く求めてきた。

一時金回答については、両協会ともに経済情勢等が変化する状況のもとでの回答額として、アルファ部分を除く小計部分の全国平均で昨夏比プラス回答。アルファ部分を加味した平均総額でもプラス回答とした。詳細は全日検の昨夏比乗率の上積み、日検の都市調整加算の満額回答については、一定評価できる部分となった。しかし、職場の繁忙状況を踏まえるならば、低額回答と言わざるを得ない結果となった。さらに、有額回答指定日に両協会の回答提示が揃わず、残念な結果となった。

回答算式については、全日検の家族手当、地域年齢手当、都市加算、日検の一律が算式に入っていないこと。両協会のアルファ回答（全日検の調整・日検の業績）についても長年にわたる組合主張が受け入れられず課題を残した。諸要求の厚生年金の労使負担割合、国民的課題に対する態度表明についても理解が得られなく残念な結果となった。ワクチン接種に伴う特別休暇については両協会から一定の考え方が出され、今後の課題として受け止めていくこととする。

各地域からの主な意見まとめでは、両協会ともに半期支部収益の増減をアルファ回答という形で従業員に責任を背負わせる不明瞭かつ理不尽な支部間格差回答、とりわけ、全日検北海道における格差回答。また、日検の有額回答指定日の回答未提示による組合軽視の対応など不満や不信、怒りや憤り等を表明する意見や指摘が全地域労連、支部から多数寄せられたものの夏季一時金要求全般については中央闘争委員会に『一任』を託された。

次の問題点を提起する。

両協会の企業ポリシー的なアルファ回答による支部間格差回答は人員不足の中で職場にて奮闘努力している組合員のモチベーションダウンや人材流出にもつながりかねない性格を持ち合わせている極めて深刻な問題であることから、両協会はこうした状況をしっかりと受け止めるべきである。

今後、社会情勢や経済情勢等による影響で検数事業そのものの方向性や対応が変化しようとしているもとで、職場環境等の様々な変化に対応すべく労使共通認識が重要となってくることから、引き続き情報の共通化を求めていくこととする。

以上

《各地域から出された主な意見》

全日検関係

（１）評価点
- 昨夏比プラス回答。
- 昨夏比乗率でプラス回答。
- 乗率重視の回答。
- 特別評価廃止による原資全体配分。

（２）不満点
- 調整加算による差別的な回答。
- 要求に対して低額回答。
- 収支・収益のみが反映された回答。
- 家族・地域年齢手当のない回答。
- 職員ABの一律格差回答。
- 契約雇員・準職員の低額回答。

日検協会関係

（１）評価点
- 支部間格差の圧縮。
- コロナ禍での安定した一時金維持。
- 昨夏比プラス回答。
- 都市加算の満額回答。
- ワクチン接種特別休暇の協議前進。
- 乗率２．０ヶ月維持。

（２）不満点
- 要求との関係では未達。
- 昨冬比乗率・一律を下げての業績回答。
- 昨冬比マイナス回答。
- 要求を無視した業績回答。
- 有額回答指定日の未提示。
- 収支・収益のみが反映された回答。

各地域闘争委員会の皆様、22春闘から夏季一時金闘争と連動した中での長期間にわたる闘争お疲れ様でした。